

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもり
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 5 MAY 2009

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
【四谷オフィス】
〒160-0008 新宿区三栄町6-12 2F
Tel. 03-5367-1872/FAX 03-5367-1873
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)

www.ywca.or.jp

人間への投資

リターンは絶望する子どもたちへの希望



ジャーナリスト 堤末果

アメリカの原子力科学者会報の新年号表紙に毎年掲載される「世界終末時計」の針は、現在5分前をさしている。針を進めるのは必ずしも世界に散らばる核の脅威だけではない。考慮されるのは世界のさまざまな紛争状況や環境破壊など、人類が減るさまざまな要因だ。だが2009年、新年号を手にとったレズリー・デイビスの頭の中に浮かんだのは、鉄格子の向こうにいる何百万人という子どもたちの顔だった。「わかりますか? 今アメリカが直面している危機は経済や金融ではありません。」

大不況の中、博打まがいのビジネスに手を出し破綻した金融機関に史上最大規模の公的資金を投入するアメリカ。その政府に対し、レズリーの所属するNPO「児童救済基金(Child Defense Fund)」は、まったく別なものに税金を投入するようさまざまなレベルで働きかけている。

現在アメリカ国内の刑務所収容者は200万人。全世界の囚人人口の4分の1を占める高率だ。統計によると黒人児童の3人に1人、ヒスパニック児童の6人に1人が生涯1度は刑務所入りを経験するとされ、医療や教育・福祉を十分に受けられない環境が貧困児童と刑務所との間に見えないパイプを作り出しているのがわかる。民営化によって持ち込まれるのは利益重視というビジネス論理だ。民営化によって、貧困により刑務所がパンク状態になるほどにこれらの企業は利益が上がる。

利益優先というビジネス論理の前に、囚人たちの人権は二の次にされてゆく。

官から民に投げられることで堀の中で行われる人権侵害は企業秘密という名のベールに隠される。レズリーたちが警鐘を鳴らすのは、不況下でも株価が上がり続ける刑務所ビジネス業界がロビー活動を通して政府に厳罰化推進の圧力をかけ、更に多くの人が貧困児童を筆頭に堀の中へと消えてゆくこの仕組みだ。

「刑務所運営予算に年間570億ドル以上かかる一方で、国の教育予算は42億ドル、それもどんどん減らされています。ここカリフォルニア州がいい例です。この10年で10万人の大学教職員を解雇しながら刑務所看守は1万人増員され、州の年間支出では大学生1人に出る

教育費が年間6000ドルなのに囚人1人には3万4000ドル。わかりますか? この国が直面している本当の危機は金融じゃない、国の未来を担う子どもたちに投資をしなくなったことの方なのです。」

CDPは現在国内に900万人いる無保険児童への公的医療保障や教育予算と母子家庭補助の拡大など、貧困児童増大にブレーキをかけるためのさまざまなセイフティネットについて、地域や州で呼びかける。医療と教育の充実という人間への投資がいかに中間層を厚くし、社会の中でお互いに助け合う精神的余裕をもたらすか。子どもたちに未来への希望とそこから生まれる自国への誇りを与えるか。CDFのスタッフたちは貧困児童には選挙権という彼らの持つ武器について、親たちには国の予算配分データを知り、それを目安に選挙で候補者の政策を検証する大切さを、地域の中で教育してゆく。

レズリーは言う。国の宝である子どもたちを犠牲にすれば終末時計はもたないだろう。モラルの針を元に戻すのは今だと。国の未来予想図である国家予算の投資先を知り、その選択に関わるために立ち上がるアメリカの人々の姿は、去年GDPにおける教育予算比率がOECD加盟国中最下位となった日本にとっても他人事ではない。人間への投資がもたらすものは、絶望の代わりに子どもたちへ手渡される希望だ。目先の利益に換算できないリターンは、彼らの瞳を輝かせ、国の未来を明るく照らす。それは挑戦ではなく、私たち大人の意志なのだ。

【筆者紹介】国連、アムネスティインターナショナルNY支局局長を経て、米国野村證券に勤務中に9・11に遭遇。現在は米国―東京間を行き来しながら執筆・講演活動を行っている。著書に「ルポ 貧困大国アメリカ」(岩波新書)、「正社員が没落する―貧困スバイラルを止める」(角川online)、「21 湯浅誠・堤末果著」。「アメリカは変わるか?―立ち上がる市民たち」(大月書店)、他

09年度中央委員会開催

日程 5月23日(土)〜24日(日)

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)

(3面に関連記事掲載)

冷静な目と熱い心を

石井摩耶子

昨年5月の幕張での9条世界会議の盛り上がりから1年、私たちは今、かつてないほど深刻な、憲法9条に違反する既成事実を目にしている。2月にYWCAの呼びかけで女性たちの国会院内集会をして反対したのに、ソマリア沖に海賊対処のため自衛艦が派遣されてしまった。「海賊対処新法」案も国会に出された。自衛隊海外派遣恒久法の一手前まで来ている。3月末には、北朝鮮のテポドン2号打ち上げに対処するため、「弾道ミサイル破壊措置」が発令され、迎撃ミサイル「パトリオット」が、テレビに何度も映し出された。

「戦地」派遣、変わる自衛隊(岩波新書)の著者半田滋さんによると、このミサイル防衛システムは「ほとんど実効性がなく、効果がない」代物で、米国が開発し海外に売り込もうとしたが購入したのは日本だけ。導入費だけでも1兆円近い税金が使われたという。導入は「米軍再編」の一環であり、自衛隊は米国の軍事戦略の重要な片棒を担がれる上、米国軍需産業の良い顧客なのだ。

私たちは、米国の軍事戦略に安易に追随する与党の政治家たちの「国益のため」といった言葉に惑わされない、強い批判精神と、事実に対する冷静な目を養いたい。米国が仕掛けた「テロとの戦い」によって、アフガニスタンやイラクでかわめて多くの一般市民、特に女性や子どもが犠牲になった事実、また、戦争請負会社の傭兵として戦場に送られた多数の貧しい若者が命を落とし、帰国した者も白血病や心的外傷後ストレス障害で苦しんでいる事実を直視しよう。ソマリアではなぜ海賊が続出するのか、先進国や多国籍企業の餌食にされてきた人々の生活の苦しみに心を馳せたい。今、最も必要なことは、憲法前文に掲げられた、一人ひとりの市民の平和的生存権を守ることであり、非暴力による平和構築のために尽すこと。武力支援などではなく、安全で衣食住が満たされた生活のための物的・精神的支援を行うことである。(日本YWCA会会長)



毎年、憲法記念日には「輝け9条 生かそう憲法」をテーマに、5・3憲法集会&パレード(主催:5・3憲法集会実行委員会)が日比谷公会堂で開催され、日本YWCAも参加している。今年も5月3日(日)午後、落合恵子さん(作家)や益川敏英さん(京都産業大学教授・ノーベル物理学賞受賞者)をスピーカーに迎え集会を実施、その後、銀座パレードを予定している。写真は2007年集会。

# 平和の夕ネ まいてる？

平和の内に生きていけること、それは世界の誰もが心から願っていること！YWCAは、大切な人々や未来を担う子どもたちのために、すべての暴力にNo!を掲げて、全国各地で活動しています。今回は11カ所の地域YWCAの20代~70代のメンバーの、憲法9条への想いや活動についてのメッセージを紹介します。

**11**年前、弘前YWCAの発足と同時に、細々ながらも共に学び続けてきた『日本国憲法』は、日本の持つ「遺産」の中で最も素晴らしいもの、との感を深めている。殊に9条は、人間が生きていく上でなすべきあらゆる基本的なことを内包していると考え(平和・正義・公平・人権・不殺生etc)。特に国家権力の発動を強く否定している点を心に刻みたい。が、それを金科玉条とするのではなく、「生きる」こと。大きさに言うならば、実存を賭けてキッチリ歩むことを己れに課することだと思ふ。今、9条はそういったことを私たちに問いかけているのではないか。学ばば学ぶほど、自分の生き方が問われるのではないか。弘前YWCAはこれから憲法に学びつつ(同時にハングル講座と身辺での平和についての訴えも)、平和を権利とする生き方を求める人々と連帯した歩みをしていきたい。

弘前YWCA 松村枝美

**憲**法9条を何としても守り通したいとの強い願いから2005年3月、仙台YWCA会員の戸枝慶さんと他団体の2名の女性が発起人となり、「9条の会」アピールに賛同する「宮城女性九条の会」を立ち上げ、事務局を仙台YWCAに置き、現在1,770名の賛同者を得て活動を続けております。

主な活動内容は、年3~4回の連続憲法講座、年1回記念行事を行う他、講座の講演要旨や世話人会で決定した事柄、また、県内の「9条の会」からの情報を細かく全賛同者に向けて知らせています。昨年は「9条世界会議 仙台集会」のよびかけ人に代表2名が加わり、会を盛り上げました。今年は、県内の一般女性から戦争体験記を募集し、冊子にして若い世代に伝えていくための作業に取り組んでいるところです。

その他、長年仙台YWCAの平和活動として「8・15母親たちの平和行進」「雛祭り平和行進」に共催団体として地域の女性たちと続けてきております。

仙台YWCA 岡 康子

**札**幌YWCAのピースアクション委員会は、北大キャンパスに近い北海道クリスチャンセンターの「Y's Cafe」(遊びに来てください)を拠点に活動しています。さまざまな年齢や職業の女性たちの交流の場ともなっています。

憲法9条は世界に自慢できる私たちの誇りであり、私はいつも感謝しています。それが今、危機にさらされています。『ルポ貧困大国アメリカ』(堤未果著、岩波新書)で著者は、アメリカの貧しい若者が貧しさゆえに戦場へ向かう現実から、「9条が変えられるのを待たずとも、社会から切り捨てられた日本人たちは黙って戦場へと向かうだろう」と警告しています。「格差」と「貧困」の拡大は放置できません。平和憲法と私たち自身の生存権を守るために、私たちは試練に立っていると思います。

作家の村上春樹は今年2月、軍事行動で四面楚歌のイスラエルであえて賞を受け、現地で素晴らしいメッセージを發しました。それは「私たちは皆、国籍や人種や宗教を超えて人間であり、体制という名の頑丈な壁と向き合う壊れやすい卵だ」というものです。

札幌YWCA 和田晶子

**憲**法改正の動きがじわじわと感じられる中、現憲法を護ろうとする動きが各地で生れてきていました。2003年に開かれたベアテ・シロタ・ゴードンさんの講演会、2005年の「ベアテの贈りもの」上映。これらプログラムを通して市内に女性たちのネットワークが生まれました。この女性たちを中心に福島YWCAがかけ橋となり、思想・信条や活動のスタイルの違いを越えて「平和と平等」を守りたいの一点で手をつなぎ、2006年「ふくしま県女性9条+24条の会」の発足に向けて推進役をにないながら県内に向けて発信してきました。この3年間、さまざまな活動を展開しております。定期的に学習会・会報発行・講演会等、現在県内600余名の賛同会員と共に、署名活動を続けながら一人でも多くの人たちが、家庭の中から日常の中から、さまざまな方法で広げていくことを願っております。

昨年2月には衆参両議院会館を訪問し、福島県選出の議員たちと直接話し合う機会を持ち、私たちの声を届けてきました。今後も「改憲にNO!」の声を上げ続けたいものです。

福島YWCA 菅野美智子

**小**学校の社会科の時間に「日本国憲法」について学び、日本は世界に先駆けて戦争をしないことを憲法に定めた、そのためこの憲法は平和憲法と呼ばれと教えられました。両親から戦争中の辛い体験を聞いていた私は、これからは戦争によって苦しい思いをすることはもうないのだと安心し、世界で初めて戦争放棄を謳った平和憲法を子ども心にも誇らしく思いました。この、世界に誇る平和憲法を変えようと思う人が制定当時からいたなどとは思っていませんでした。今を生きる子どもたちにも、この憲法を誇りに生きてほしい。そのためにも私たち大人は、この憲法を名実ともに変えることなく手渡していかなければなりません。東京YWCAでは憲法集会への参加・映画「日本国憲法」の上映等、憲法を守る活動を行っています。

東京YWCA 手島千景

**憲**法9条は、ただの文字の羅列ではありません。そこには実際に血を流し、人を殺し、殺された人たちの生きた証と、平和を願うメッセージが込められています。制限をつけて戦いを許可するのではなく、戦い自体を放棄すること。これは何千万の方々の尊い命と引き換えに得た、決して忘れてはならない教訓です。戦後64年が経ち、当時を生き抜いた方々の貴重な話を伺える時間も限られてきています。そんな今だからこそ、私たちは憲法9条が持つ意味を改めて考え、これを受け継いでいく必要があるのではないのでしょうか。

名古屋YWCAでは9条の大切さを人々に知ってもらうために、昨年9月に「Thank 9 ピースアクション」を行いました。また現在、若い世代を中心に新しいアクション(平和をつくるためのワークショップなど)を望む声も上がっています。

名古屋YWCA 下村優紀

**病**後リハビリに明け暮れ、思いはともかく十分に活動できない身ではあるのだけれど、掲げられたYWCAのビジョンはどんな状況にあろうともその実現を願って発信し続けたいと思わせる。静岡YWCAには長年核廃絶を訴えてこられた高齢の被爆者がいる。また「YWCAの運動はハードルが高くて…」と言われる方がいる。仲間である会員の思いをつなぎ一緒に非核・非暴力による平和を構築出来なくてだとやれるのだろう。「静岡YWCA 9条の会」では今年度は「日本YWCA100年史」を読みたいと提案した。ワイワイガヤガヤ、負の遺産も含め先輩方のたどられた道に学んで平和憲法を護る力とし、行動できたらと思う。日本各地にある7000を超えた「9条の会」の存在は、市民の声として改憲勢力にとって侮れない存在であるそうだから。

静岡YWCA 石原清美

札幌

函館

弘前

仙台

福島

新潟

甲府

浦和

東京

横浜

湘南

平塚

大阪

浜松

静岡

名古屋

京都

神戸

広島

呉

松山

福岡

長崎

熊本

沖縄

# 究極の「解釈改憲」路線への転換に注視！

日本YWCAをはじめ10の女性団体が呼びかけ2月20日に開催した「女性たちの院内集会」で、高田健さん（許すな！憲法改悪・市民連絡会）が、憲法9条改悪に向けての動きについて次のように話してください。

日本国憲法の改憲を願う人々は、「9条の会」の全国の広がり、昨年5月の「9条世界会議」の予想以上の成功、といった「9条を守れ！」の市民の声の高まりを受け、やすやすと「憲法改正」を言い出せない状況になっている。そこで、巻き返しをねらう明文改憲派は、「解釈改憲」の強化で対応しようとしている。例えば、「海賊対策」を口実にソマリア沖へ自衛隊を派兵し、「海賊対策新法」をつくり、ひいては自衛隊海外派兵恒久法へ誘導しようとしている。自民・公明の与党は、2007年に改憲手続法の成立を強行した。しかし、投票年齢の設定や最低投票率の是非など、付帯決議で検討を義務付けられた課題がそのままである。こうした中で、自民党は、衆議院の与党だけでも、憲法審査会を始動させたいと考えている。09年度予算案には憲法国民投票実施に向けた予算が46億9000万円計上されている。総務省は「国民投票の準備等に必要経費」とし、市町村が投票名簿の作成など新たなシステム開発をする費用に当てられる見込みである。

水面下での憲法審査会始動への動きを、引き続き注視していく必要があります。（編集委員会）



主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずだ。（コリントの信徒への手紙1 15章58節b）

私の日本YWCAとの最初の関りは、私が都内のキリスト教主義学校の中学生の時でした。今井真理総幹事、肥後路得子中高YWCA担当幹事だった、半世紀位前のことです。毎年、御殿場の東山荘で開催されていた「中高YWCAカンファレンス」に参加する中高生の意見を取り入れようとしていたらしく、その準備のため日本YWCA事務所まで行ったことがありました。「主体性を重んじる姿勢」があったのだと思います。私はそこで出会った優しくして凛とした路得子先生に魅了され、大人になったらこういう女性になりたいと憧れたものです。

その尊敬の念は、彼女がDV被害者のためのシェルター「ステップハウス」のお仕事をなさるようになった今日までも変わりません。生きることに意味を求めて悪戦苦闘していた中学生の私にとって、生涯にわたるメルクマールとなる人物との出会いでした。

そのような人たちの「出会いの場」としてのYWCAは、ひとつの世代から次世代へと課題を引き継ぎ続けていることを確信します。今、日本YWCAが懸命に取り組んでいることも決して無駄になるはずがありません。

久保礼子（日本キリスト教団那覇中央教会牧師・沖縄YWCA会員）

**こ**の春、友人と長崎原爆資料館・平和公園を巡った。友人はこれまで平和問題を共有することがなかった方である。帰り道に友人が言った。「私は戦争についてあまり知らない。資料館での平和案内人のお話も、初めて聞く話が多かった。でも国はトップの人に作られるもの。仕方ないと思う」。私は「でも私たちの国であり、9条で守っているものがある。私たちは、国のしていることに『おかしいよ』と言うことができる」と話した。私にとって9条は、自分のコトバで語り、守るために行動する基盤である。9条に関する認識が低かった私に、意識化を促した神戸YWCAは、30年前から現代史勉強会「いもづる」を、またアメリカでの9・11爆破事件以降、他団体と街角に立ち「ピースアピール」を行っている。平和・基盤委員会では、平和集会等でYWCA内外に9条をアピールしている。 神戸YWCA 松本光代

**昨**年5月、9条世界会議・関西が行われ、大阪YWCAとしてブースを出展することができた。武力によらない平和をめざして共に活動する人々と出会い、大きな力をもらった。たくさんの寄せ書きに「憲法9条」でつながる連帯を感じた。8月には、「9条の会・関西」、「阪大9条の会」と共催し、「韓国9条の会・金承國さん講演会」を行った。韓国においても9条の精神が広がっている。平和環境委員会では、「9条」「非核」「環境」「教育」をテーマに気づきを得ることができる講演会や学習会を行っている。 現実に関心を向け、いけないことにはNOといえる仲間を増やし行動していきたい。 大阪YWCA 大畑知子

**呉**YWCAの場所から誕生した、「ピースリンク・広島・呉・岩国」の20周年記念シンポジウムが今年3月7日（土）開かれた。午後、自衛隊基地で、ピースポートで海上デモを行った。ソマリア沖への護衛艦「さざなみ・さみだれ」の派遣の1週間前であった。〈煌めきのほか動かざり春の湾〉この日、瀬戸内の呉湾は春光を浴び穏やかそのもの。この平穏のままソマリア沖へ向けて出ていかないことを祈る思いでこの句が生まれた。〈春荒れや急旋回の取材ヘリ〉しかし1週間後の14日（土）、物々しい警備体制・取材体制の中、出港していった。この日は、風が強く白波の立つ呉湾であった。海賊対策と称したこの流れが、平和憲法（9条）をなし崩しにし、いつでもどこでも日本の軍隊が武力を行使できることにならないよう、自分にできる行動をしていきたい。 呉YWCA 長尾真理子

**日**本国憲法」が1947年5月3日施行され、「あたらしい憲法のはなし」が改革と清新の気に満ちて義務教育の場で教えられた時、私は少し年上で直接学校で学ぶということはありませんでした。自覚的にふれたのもっと後のことになるのですが、侵略戦争の反省にたつての「前文」と「戦争の放棄」を謳った9条には、人類社会の普遍的原理・理想がかかげられていることに心うたれました。そして日本は今や、戦争をしない国、戦争の出来ない国なのだから、戦争の出来る他の国とは違った在り方、国際貢献の姿を追求しつつ、この9条の精神を世界に広めていかなければと思っています。福岡YWCAでは、毎月1回、街頭でサイレントアピールを行い、「9条護持」「武器で平和はつくれない」「平和憲法を守ろう」と訴えています。いつか世界に平和が実現する日が来ることを信じて。 福岡YWCA 松井容子

## 中央委員会のお知らせ

### 今秋の全国総会を視野に入れ

今年の中央委員会は、秋に開かれる第30回全国総会を視野に入れた大変重要な会となり、中央委員会は全国総会での決議事項を実行する責任を担うものであり、1年間決議事項が着実に実行に移されてきたかを厳しく自らに問う場でもあります。今回協議される主な事項をお知らせし、会員の皆さまの少しでも多くの声が反映される会となりますよう願っています。

#### ●公益法人新法への対応

昨年12月に公益法人新法が施行され、(財)日本YWCAは特別民法法人(新法人移行まで、

5年間の猶予期間)となり、新法人への移行に際しては、公益財団法人の申請をめざして検討を重ねてきました。しかし「公益法人制度改革に対応する部会」からの報告をもとに、2月・3月の常任委員会で、日本YWCAの現状と課題を検討し、「非営利型一般財団法人」を目指す方向も考えられるのではないかと意見も出されました。その理由は、日本YWCAのビジョンを達成するためには、まず地域YWCAの活性化が必要であり、日本YWCAの役割として、しばらくは共益事業に力を入れるべきではないか、と

#### ●会則改正案

改定の主なポイントをお知らせいたします。①「日本キリスト教女子青年会」を「日本YWCA」と名称を変更。②世界YWCA前文と日本YWCA前文を連記し、日本YWCA前文とする。③キリスト教基盤を前文と目的に明記する。④会員のほかに、YWCAの目的に賛同し、その運動に参加することを望む男性はすべて会友と位置づける。但し、学校YWCAについては別に定め、学校YWCA規程を作成。⑤総会の会期を現行の3年から4年に延長。⑥書記を会長・副会長とともに総会で選出。などが提案されることとなります。

#### ●分担金算出基準案

前回中央委員会で、「分担金算出基準を地域YWCAの意見を聞きながら検討する」ことを確認しています。分担金算出基準検討チームは、地域YWCAの協力を得て検討を行い、短期と長期的な視野での分担金算出基準案を検討しています。その報告を受けて、日本YWCAの活動全体を考慮した建設的な議論がなされますよう願っています。

#### ●アジア太平洋戦争の謝罪と未来に向けて

第30回全国総会までに、日本YWCAとしての決意表明を明確化する、そのチームを発足させることが前回中央委員会で決定されました。プロジェクトチームでは、地域YWCAから寄せられた多くの熱い声を聞き、チームとしての文案を作成

以上が主な協議事項ですが、次総会期の全国運動を活発にするために、今までの活動のありかたにとらわれない発想が考えられなければ、秋の全国総会の持ち方をも含んだ活発な議論が展開される場となることを願っています。

中央委員会準備委員長 実生律子



# 日韓の歴史に向き合う

## 連続講座「『韓国併合』100年目を迎えるにあたって」

昨年11月の日韓ユース・カンファレンス2008を受け、実行委員会では、韓国YWCAユースと一緒に社会を変革していくには、日韓の正しい歴史に向き合い、学び続ける必要性を改めて強く感じました。来年は日本が韓国を併合してから100年でもあり、定期的に勉強する機会を持ち、2010年のカンファレンスに繋げていくため、また、参加者を広げるためにも広く一般の方と一緒に学べる3回連続講座を企画しました。



4月5日に第1回目「東アジアにおける日本と朝鮮の近代史」と「韓国の女性の歴史を通してみる日本軍『慰安婦』について」を学びました。講師の一人である、朝鮮人の父と日本人の母を持つ山下英愛さんは、90年代に韓国で慰安婦問題運動に関わってきた体験を交えて日本軍「慰安婦」について話されました。私が印象を受けた以下3つのポイントを紹介します。①朝鮮人「慰安婦」も日本人「慰安婦」も出自にかかわらず、女性として債務奴隷・性奴隷であり、慰安所そのものの発想やあり方が問題である。②韓国社会は「家族観」が根強い。歴史を遡ると朝鮮王朝の儒教・朱子学の導入により、男性中心の家族社会の形成と、その影響力を確固たるものにするために女性の貞操感を強めた。さらに、日本の植民地からの解放後も家父長制が再生産され、韓国で「慰安婦」の歴史は長い間、闇に葬られてきた。③日本人「慰安婦」の沈黙への危惧—日本社会の家父長制問題によって、今も日本人「慰安婦」は沈黙させられているのではないかと。そして家父長制と軍事文化は融合されており、日常に潜む家父長制と軍事文化にもっと敏感に対処していく必要があるのではないかと。

講座終了後アンケートの中で、20代韓国人の方から「ここに来るまで、日本では韓国の歴史は一部歪曲されていると先入観を持ってきたが、講座を聞き歪曲はなく、かえって韓国の近代史に興味を持っていて感動しました」という声がありました。この声は朝鮮半島の人々の声を反映するものであると感じ、私はこの声を大切にしたいと思います。次はテーマ「在日コリアンのidentityとidentities」で6月14日(日)に開催予定です。

横浜YWCA 木村真理子



### 子育て支援プログラム ほっとスペース「なのはな」 「花のり巻き、つくったよ」



湘南YWCAの子育て支援プログラムは2002年4月に、既存の「なのはな親子教室」を再編して「ほっとスペースなのはな」として誕生しました。多くの方々の協力を得て7年間続

いてきました。昨年度も、4月に10組の親子(2〜3歳児)を迎えて、月2回のプログラムを開いてきました。内容は子どもたちに経験させたいことやお母さん方の希望

(講習会など)に添うようなことなど織りまぜて決めています。3月には、みんなで「花のり巻き」を作りました。子どもたちは「今日は早起きしたの」、「エプロン持ってきたの」などと張り切っています。花のり巻き作りは初めての人がほとんどなので、スタッフが実演して見せてから始めます。親子で協力し合って作るのですが、子どもたちは積極的に、「たのしい」を連発している子、黙々とスプーンでごはんをのりの上にのせている子、細まぎのやり方を自分で工夫してうまく作れるようになった子など、皆真剣です。仕上げの太巻きはお母さんのお仕事。うまく巻けるかドキドキです。でき上がった太巻きはスタッフが切り分け、葉らんの上にきれいに並べてからみんなの前に出します。

みんなでベロリとたいらげた後は、気持ちもなごみ、仲良くなって、でももうじきお別れです。この1年間で子どもたちは大きく成長しました。それを見守るお母さん方もその成長ぶりが実感できて、ゆったりとうれしそうです。その姿を見るのはスタッフにとってもまた一番うれしいことです。

会の終了後、スタッフだけで食事をとります。その日の出来事を振り返り、一人ひとりが安心して過ごせたか確認し、気になることや気がついたことは記録して次の回につなげるようにしています。この話し合いはスタッフ間の考え方を理解し合い、子どもを見守る時やお母さん方に接する時の対応の仕方などを学び合える大切な時、そして楽しめる時となっています。

湘南YWCA 松山恭子

## ガザ封鎖解除署名 外務省へ提出しました



12月から「ガザ封鎖解除を求める署名」の協力をお願いしましたが、署名呼びかけ10団体に集まりました署名が最終的に52,715筆となりました。

3月31日(火) 外務省へ7団体が赴き、柴山昌彦外務大臣政務官に手渡しました。

封鎖が、ガザの状況をますます悪化させ、復興もままならないこと。そして、日本が10月から国連安全保障理事会の非常任理事国となったことを受けて、ガザ封鎖解除に向けて積極的に対応してほしいこと。またパレスチナ問題の政治的解決という根本的な問題解決に国際社会は責任を果たすべきで、日本政府としても積極的に働くように要望しました。政務官からは、これだけ多くの方が関心を持つ

- 「協力ありがとうございます」  
賛助費(以下敬称略)  
藤野尚子 湯口 恵 水上伸子  
世界YWCA賛助費  
渡辺 肇 俵 恭子  
平和教育資金  
藤野尚子 実生律子 川瀬真治  
俵 恭子 三浦みつ美 林  
Hana Ja Kim  
横浜英和学院  
オリープの木暮金  
阿部知子 野口富子 中本ミツ子  
田村セツ 岡本靖子 三崎たつ子  
斉藤万里子  
国際協力募金「ガザの女性と子ども支援」  
石橋孝子 中田裕子 柳瀬春一  
緒方貴穂 外崎弘子 藪内幸子  
佐野昌子 西 文子 田中美智子  
石崎喜美子 アンテ大川えみ子  
東京YMCA西東京センター内04  
22事務局  
函館YWCA 弘前YWCA  
釧路YWCA 静岡YWCA  
福島YWCA 東京YWCA  
パレスチナYWCA支援募金  
藤野尚子 湯口 恵 横山由美子  
緊急国際協力募金  
釧路YWCA  
国際協力募金「相互援助」  
釧路YWCA 相山YWCA  
クリスマス献金  
ブルースマス献金  
ブル学院中学校高等学校  
日本基督教団鎌ヶ谷教会  
日本キリスト教団松沢教会  
日本キリスト教団聖ヶ丘教会  
一般寄付  
実生律子 唐崎旬代 渡辺 肇  
中村恵美子 江尻美穂子  
東京YWCA有志  
(2009年3月21日現在)

## 映画紹介

### 「沈黙を破る」

監督：土井敏邦 2009年

長編ドキュメンタリー

沈黙を破ったのはイスラエル元将兵の青年たち。彼らは絶対的な権力を手に占領地で行ってきた加害行為を告白し、自らの人間性・倫理感喪失の痛み、そして病む祖国の蘇生を訴える。自国の安全以外には目を向けようとする世論の非難の声の中で、それは、破壊と殺戮に晒される現実をたくましく生き抜く

パレスチナの人々の生活の記録と共に描かれる。長年パレスチナに関わってきたジャーナリスト土井は、イスラエル・パレスチナ問題を加害・被害両面から描くことで、侵略・占領・加害について我々自身の過去と現在を問いかけてもする。同名の著書もある。

「事実を見つめることから沈黙を破る勇気へ」

(東京YWCA 寺嶋公子)  
●5月から東京・大阪・京都での上映開始。詳しくは(株)シグロへ。03-5343-3101  
<http://www.cine.co.jp/>



「国の未来を担う子どもたちに投資をしなくてはならない。今アメリカが直面する本当の危機に、日本もまた無関心ではいられないと警鐘を鳴らす堤未果さん。YWCAはNY在住のころ強い関心を持った機関であり、今も応援しています」とうれしいメッセージをいただいた。▼同時に9条をめぐる、各地で繰り広げられる色とりどりの活動を通して届けられた、いやませばかりの平和への想い、青い空に映える新緑の木々にも似て大きく育て!

(M・R)